

では、小説の「結」の部分を推敲していこう!

「もう一度、よーいドン!」 (結)

あらすじ/弟・拓に会いたくて、下界にやって来たゴーストの五郎。しかし、それに期限があり拓の運動会の前日、天国へ戻らなければならなかった…。

「最低最悪サンデー」 (結)

あらすじ/和男は高校のクラスメート・純子からある事件の犯人呼ばわりされ、深夜の公園に呼び出される。それは純子の狂言だったのだが…。

**ピフオア**  
元気が出るラストにしたよ。  
あんなにかけっこが苦手だったのに、「一番で走っているのを見て」と、絶対に明日は見に来てね、と言った拓の多がよみがえった。  
ちやんと拓のこと見ているよ。「ここからの眺めもそう悪くないから」しっかり見ているよ。  
がんばれ拓、転ぶなよ、転んでも一人でもう起きられるよな。ちよっとさみしいけど、俺もがんばってここでやってくと走っている拓に誓った。

**ピフオア**  
純子の結末はこうだ!!  
結局、ぜんぶ純子のウソだった。  
「だましたのか。なんでこんなことするんだよ」  
「わからない? 親男が好きだからよ」  
と、純子は言いながら泣き出した。  
なにがなんだかわからない。でも、気が強くて不器用な純子のことはキラリじゃなかった。最低最悪で最高の回響は終わった。見上げた空には三日月が輝き、僕らを照らし続けた。

**改善ポイント!**  
一文が長過ぎる。句点も少なく読みづらいので、まずはそこを直そう。似たような文章が続くところはけずり、その分運動会の情景が浮かぶ描写をつけ加えよう。

**改善ポイント!**  
まずは、「～た。～た。」が続く語尾を変えよう。純子の性格(キャラ)を表す言動も入れたい。また和男がそんな純子を「キラリじゃない」とわかる行動(描写)も加え、最後を盛り上げよう。

**アフター**  
もう会えないふたりが話すとしたら…  
あんなにかけっこが苦手だった拓が一番で走っていた。  
「絶対、絶対、明日は見に来てね」  
拓の多がよみがえった。ちやんと見ているよ。  
「ここからの眺めもそう悪くないよ」  
「がんばれ、拓!」  
思いっきり叫んだ。転ぶなよ。転んでも一人でもう起きられるよな。ちよっとさみしいけど、俺もがんばってここでやってくから。「一番でゴールを切る拓にそう誓った。」  
しつこさがなくなり、文章にリズム感が出た。弟へのエールも効いているぞ。ラストもさみしいけど、こちらも成功!!

**アフター**  
ちゃ、和男だった…  
結局、ぜんぶ純子のウソだったのだ。  
「だましたのか。なんでこんなことするんだよ」  
「親男のバカ! わかんないの? 好きだからに決まっているじゃない」  
純子は怒りながら、わんわん泣き出した。  
なにがなんだかわからないけど、僕も泣いてきた。気が強くて不器用な純子、キラリじゃないよ。  
見上げると空にはきれいな三日月。  
最低最悪で最高の回響の終わり、月は泣き疲れた僕らを照らし続けた。

ハガキ文学大発表!

**今月のおすそ賞**  
「ハガキ文学大発表」のコーナーは、毎月、読者のみなさんから寄せられた作品の中から、編集部が選りすぐった作品を発表しています。今回は、北海道から寄せられた作品の中から、編集部が選りすぐった作品を発表します。この作品は、読者のみなさんから寄せられた作品の中から、編集部が選りすぐった作品を発表します。この作品は、読者のみなさんから寄せられた作品の中から、編集部が選りすぐった作品を発表します。

ハイ! わかりました!

ハガキ文学大募集!

1枚のハガキにキミのオリジナルの小説を書いて送ってね! テーマ、ジャンル、長さは自由。びっちり書くのもよし、数行でもOK! おもしろい作品は、万年筆先生が誌上で紹介&アドバイスするよ~!! 住所・氏名・電話番号を書いて〒101-8001 東京都千代田区一ツ橋 2-3-1 小学館 小六部「小説すらすら講座」係 まで送ってね!  
※個人情報の取り扱いについては、197ページをご覧ください。

**次回のテーマは**  
ハガキ文学大特集!  
これまで送られてきたハガキ文学作品を誌上添削する特別企画! ひとり何作でも大歓迎だよ!!

万年筆先生の文学すらすらメモ  
「八月の路上に捨てて」で第135回芥川賞を受賞した伊藤たかみ。妻は第132回直木賞受賞作家の角田光代だ。夫婦で芥川賞、直木賞受賞は史上初ということで、話題となった。ちなみに夫婦で直木賞受賞作家なのは、藤田宣永・小池真理子夫妻。